

名大の時間

名寄での4年間を振り返って

年になってしまいました。新型コロナウイルスの影響により、この4年間で世界は大きく変わってしまいました。大学生活にも支障が出て、私たちが1、2年生の頃に当たり前のようにできていた生活や経験、行事などを先輩たちはできていません。

また、3、4年生では、私たちの代も先輩方が当たり前にできていたことができ

なくなってしまうました。しかし「あたりまえ」ができなくなるにより、いくつかの大切なことに気づくことができました。

まず、今までの「あたりまえ」がどんなに貴重でかけがえのないものだったのかわることができました。例えば、学校祭や合宿などの行事で充実することができたのは私たちの代まででした。

当時は少し大変だなと感じていたことも、出来なくなってしまうととても寂しい気持ちになることを知ることができました。「大切なものは失ってからはじめて気が付く」という言葉がありますが、本当にその通りだと実感しました。

次に、想定外の事態に嘆くのではなく、機転を利かせることの大切さや必要性も学ぶことができました。例えば、対面での授業ができなくなった際や、実習を延期せざるを得なくなった際も、先生方は私たち学生のために動いてくれていました。また、実習先の先生方も従来の保育が出来なくなった際に、新たな保育を考えたり、実習の受け入れのために様々なことを用意してくださったりしたと思います。私が就職してからも、想定外のことが沢山起こると思いますが、私も機転を利かせ、乗り

越えられるような立派な社会人になれたらいいなと思います。この在間は、様々なことを乗り越えていくために、たくさんの人に支えていただきました。私は4月から道北で保育士として働く予定です。

すぐには難しいと思いますが、私もいつか誰かを支えていけるような人になれたらなと思います。今までありがとうございました。とても充実した4年間でした。

社会保育学科4年

中山莉沙

